

出雲地方

ええこと聞いた(からかい歌)

収録・解説・酒井 董美たかよし イラスト・福本 隆男

連載にあたって

民話に引き続き鳥根県内であつた面白いわらべ歌を紹介する。メロディは出雲かんべの里のホームページ「わらべ歌の部屋」から、QRコードでお聴きいただきたい。

なお、収録時に伝承者が「本人から発表の許可も得ている。学術上の必要もあるので、連載ではお名前などを明記させていただいた。読者の皆様もご了解いただきたい。

民話に引き続きイラスト担当の福本氏は隠岐郡海士町出身で、現在は埼玉県三郷市在住。長年筆者とコンビを組んでいる。

ええこと聞いた 疾う聞いた

洞光寺山へ聞つこえて 松が三本転んで

洞光寺でらの小僧がなんぼ出て

すけかあても かあても 転んだ

(昭和36年1月6日収録)

☆伝承者 佐々木綱さん・明治29年生

解説

友だちの秘密を知った仲間が、その子をひや

かしてうたつていたという。この中に庶民の素朴で古い民間信仰が隠されている。

まず、言霊信仰である。ことばには神が潜んでおられるから、良いことばを使えば良い結果が現れるが、よくないことばは、逆に悪い結果をもたらすのである。「ええこと」は決して良いことではない。当人には知られたくない秘密を知られたことは悪い言霊を発したことになる。

次に山の信仰である。山は人間の住む平地とは違い神聖な神がお住まいになる場所である。この歌では洞光寺山へ「ええこと」なるものの内容が聞こえた結果、言霊の影響が出てくる。それは「松が三本倒れ」ることにつながる。これには宿り木信仰と聖数信仰が背景にある。

松は神の宿る神聖な木とする信仰である。昔の人たちは、多くの樹木がすっかり落葉する冬にあつても、青々と葉をつけている松に神秘を感じた。つまりこれには神が宿られるから葉が落ちないと考えた。正月に門松として家の前に松の飾られる理由がここにある。

また「三」も神聖な数である。神にお供えするものに乗せる器を三玉といったり、人が社会人として認められる「七五三」なる帯直しの行事が、この地方では三歳に基本をおいて行われているが、そうして考えると「松が三本倒れた」と意味の重大さが理解されるのではなからうか。

つまり、本人にとつて知られたくない、絶対に秘密にしたいことが、こともあろうに神のいらつしやる神聖な山に聞こえ、次々と悪い結果をもたらすことになる。それは神の宿る木の松が、尊い数の三本も倒れ、小僧さんが直そうとしてもできなかつたのだから、本人の面目は丸つぶれということになる。

子供の歌に秘められたこの奥の深さは、なかなかすごいものがある。この歌は当然のことながら、このような信仰が常識だった時代に生まれたと思われるのであるから、古い時代に作られたということが推定される。

(元鳥根大学法文学部教授)